

苔玉づくり ～敬老の日のプレゼント～

作成者：花と緑の会 尾崎 まこと

- 対象者・人数：小学校中学年以上（3年生～）10～40名
- 所要時間：45分
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名、アシスタント1名
（学校で行う場合は担任にも協力いただく）
- 実施場所：学校、児童館、公民館



■ 資材

- ・ケト土（またはローピート）70ml
- ・赤玉土小粒 30ml
- ・やや厚手ビニール袋（大）2枚
- ・キッチンペーパー1枚
- ・黒木綿糸 3m程
- ・新聞紙
- ・雑巾、ほうき、ちり取り



赤玉土・ケト土
（または、ローピート）



ビニール袋・黒木綿糸 等

■ 花材

- ・ハイゴケ（這い苔）
- ・テーブルヤシ

※ その他の観葉植物、パキラ、ドラセナ、ネフロレピス“ツディ”、シンゴニューム、アイビー、ヤブコウジなどの植物でも良い。



ハイゴケ（這い苔）



テーブルヤシ

【指導内容と目的】

- ・ 敬老の日をお祝いして、おじいちゃん・おばあちゃん（お父さん・お母さん）に自分で作った苔玉を、感謝を込めてプレゼントする。（メッセージカードなどを用意する）
- ・ プレゼントした苔玉を家族が目にする場所に飾り、世話をして育てる。家族で観察することで、植物に対する興味がわき、共通の会話を楽しむことができる。

【対象者への配慮】

- ・ 必要な資材は一人分ずつ全部を用意する。
- ・ 例えば黒糸を共通で使うことをせず、必要な長さを切り分けておくなど。
- ・ 園芸用の手袋は使用せず、素手でハイゴケなどの感触を楽しむ。手に合わないとケト土が飛んだり、糸が手袋に絡まったりする。
- ・ ケト土は、黒く粒子が細かいので爪の間や指紋などに入り込むとなかなか取れない。子供が手で揉んでも破れないような少し厚手のビニール袋を用意してビニール袋の中で揉むようにする。
- ・ 片手で水苔を貼った苔玉を持ち、糸をかける作業は難しい。初めは置いたままで大きくバツ×になるように何度かかけて、苔が剥がれ落ちなくなれば手に持って糸かけをするように指導する。
- ・ おじいちゃん・おばあちゃんへのプレゼントなので、気持ちを込めて作れるように、「おじいちゃんにプレゼントしたら喜ぶね～」などの声掛けをする。
- ・ 道具の後片付けや、ゴミの分別なども最後まで指導する。

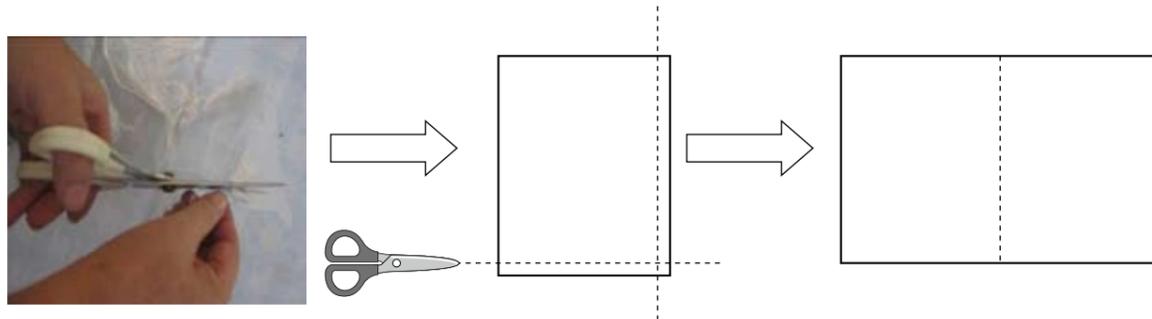
① 事前の準備

■ 資材の用意（1人分の材料を人数分用意する）

- ・ケト土 70 ml、（または、ケトの代わりにローピートを用いる）
- ・赤玉土小粒 30 ml、
- ・やや厚手ビニール袋(大) 2枚、
- ・キッチンペーパー 1枚、
- ・黒木綿糸 3mほど、
- ・新聞紙
- ・雑巾、ほうき、ちり取り
- ・テーブルヤシ 1株（他の観葉植物、ヤブコウジなど和の植物でも素敵に仕上がる）
- ・ハイゴケ 20cm角

■ 事前の作業

- ・ビニール袋1枚は、底と側面を1か所切り 1枚のシートにする



- ・もう一枚のビニール袋の、底左にケト土・7、右に赤玉小粒・3を入れ、混ざらないようにする。

- ・黒木綿糸は、3mほどを厚紙などに巻き取る。

- ・ハイゴケを20cm角に整える。



② 当日の流れ

全体の時間：（所要時間）45分（13：15～14：00など）

参加者数：10～40名

■ 具体的な手順・指導ポイント

指導ポイント

- ・ケト土は苔を定着させる事が目的なので、分厚くならないようにする。
- ・株の際までケト土が来ないように気をつける。
- ・植物、苔の性質を説明し、水切れさせないよう管理の方法も忘れずに伝える。
- ・根についた土を落とす時も優しく扱い、植物の根をケト玉で団子のように包むように伝えるとよい。
- ・片手で水苔を貼った苔玉を持ち、糸をかけるという作業は低学年にとって難しい作業になる。
初めは置いたままで大きく×に何度かかけて、苔が剥がれなくなれば持って糸かけをするようにする。

■ 説明をする内容

テーブルヤシについて

ヤシ科 メキシコ・中南米原産の常緑低木の観葉植物。
1000m以上の高地の森に育ち、明るい日陰で空中湿度を好む。
強い直射日光に当たると葉やけを起こす。比較的低温に強く少々暗い玄関などでも育つ。

ケト土について

池の周りや湿地で育つアシやヨシ、マコモや水生の苔などが水底に堆積して長い間かけてできた粘り気のある黒い土。保水性がある。

ローピートについて

草が、数千年にかけて堆積して分解し、有機物として残った物。

※ ビニールの中でケトを練り、ケト玉を作ると手が汚れないので、子ども達も作業しやすい

キッチンペーパー

子どもたちの手の大きさでも球が握りやすいように、破れにくいキッチンペーパーの上に、ハイゴケを裏向きにおき、その上にケト土に包まれた根を置き、茶巾を絞るようにすると、苔とケトが密着し、糸を掛けやすくなる。

■ 具体的な手順・作業ポイント

① 講師挨拶、アシスタント紹介。

ケト土（またはローピートを代用）
テーブルヤシの説明。

② ビニール袋に入っているケト土と赤玉小粒をビニール袋の外側からよく揉み、耳たぶぐらいの堅さになりつやが出るまで揉む。
(注：固ければ水を少し入れる)



③ 耳たぶぐらいの堅さになったら、袋の中でお団子にまとめケト玉を作る。



④ 新聞紙の上に、破れにくい厚手のキッチンペーパーを敷きハイゴケを裏側にひっくり返して置く。

⑤ 袋の外からケト玉をつかみ、袋の表裏をひっくり返して、開いたビニールシートの真ん中に置く。



⑥ 袋に手を入れたままで、ケト玉を直径15cm程の円盤に平たく延ばす。(注：真ん中は外側より厚くする)



⑦ テーブルヤシの根鉢の土を根を傷つけないように丁寧に2/3落とす。



⑧ 円盤に延ばしビニールシートにおいたケト土の真ん中にテーブルヤシを置く

⑨ ビニールシートごと手に持って、テーブルヤシの根鉢を包みお団子を作る。(注：根元の茎が厚くケト土で埋まらないように、根を切らないように気を付ける)



⑩ キッチンペーパー（破れにくい厚手の物）を拡げて、ハイゴケを裏向きに敷き、ケト土に包まれた根を苔の上におく。



⑪ それを茶巾絞りのように絞り、苔とケトを密着させる。

*キッチンペーパーが無い場合は、隙間なくケト土を苔で包み、手で何度もおにぎりを握るようにし密着させる。(注：苔が重ならないように隙間なく貼る)



⑫ 苔玉を片手に持って、黒木綿糸かけをする
(テグスなど使用せず年月がたてば腐るなどしてなくなる自然素材の綿糸を使う)



⑬ 苔玉の上から下へ、肩から下へ、キュッと締めながら最初は荒く×でかけ、苔玉を回しながら糸が絡まないようにかける(注：株元にしっかり糸をまわして、すっきりみせる)



⑭ 終わりの糸は結ぶか、かけた糸に挟み込む。

⑮ 苔玉の形を整え出来上がり。

⑯ 机の上を片付ける。ビニール袋に開いたビニールシート、ポットを入れ、新聞紙は新聞紙で畳んで集める。机の上を拭く、床を掃く。

■ 所要時間や配分

開始60分前	① 集合・学校や主催者への挨拶・打合せ 会場準備(床・机面養生、材料運び込み・配布、水の用意)
5分(5分)	② 児童集合・挨拶(講師・アシスタント自己紹介) 材料、苗の説明
35分(30分)	③ 作品作り ・ケト玉作り ・テーブルヤシのケト玉作り ・ハイゴケで包む ・糸をかけて苔玉完成
45分(10分)	④ 後片付け・管理方法説明

■ 作品鑑賞方法 長く楽しむための管理方法説明

飾り方

洋風、和風の平皿などに飾る、夏なら涼しさを演出してガラスの器やグラスなどに飾ることもできる。

置き場所

明るい直射日光の当たらない風通しの良い室内で、床の間、玄関、居間、机上、洗面台、トイレなど小さくてどこにでも置けるので、飾る場所を変えて楽しむ。

水やり

湿度を好むので、時々葉の表と裏に霧をふく。

苔玉が乾いたら、バケツに水を用意し、苔玉ごと水に浸し葉も洗う。

10分ほどつけて(苔玉からプクプク泡が出てくる)軽く苔玉を絞ってから、皿に飾る。

鉢皿に水がたまらないように、皿の水は捨てて育てる。

肥料

時どき薄い液肥をバケツの水やり時に与える。

■ 配布資料

**** 敬老の日のプレゼント・テーブルヤシの苔玉 **** 2011.10.15 13:15～14:00

南つつじヶ丘小学校3年1組

講師 尾崎 まこと

※材料

苗・テーブルヤシ

ケト玉(ケト土 7、赤玉小粒 3)

少し厚手のビニール袋・中 2枚(1枚は底と端を切り開く)

黒・木綿糸(自然素材) 3m 厚紙などに巻き取る



○テーブルヤシについて

ヤシ科 メキシコ・中南米原産の常緑低木の観葉植物、

1000 m以上の高地の森に育ち、明るい日陰で空中湿度を好む。

強い直射日光に当たると葉焼けを起こす。比較的低温に強く少々暗い玄関などでも育つ。

○ケト土について

池の周りや湿地で育つアシやヨシ、マコモや水生の苔などが水底に堆積して長い間かけてできた粘り気のある黒い土。保水性がある。

※作り方

ケト土の材料をビニール袋の中でまぜ、耳たぶのかたさにねり、ケト玉を作る。

もう1枚の開いたビニールの上で真ん中を厚くし、径15cmの円盤になるようにのばす。

テーブルヤシの根を傷めないように土を2/3程落としケト土の真ん中に置く。

根が切れないように丁寧に根鉢を包み、ケト玉にする。

這い苔が重ならないように、ケト玉に貼りつける。

綿の黒糸を上から下にまわして、這い苔をとめる。

※管理方法

置き場所は窓越しの明るい室内。

乾いたらバケツに水をはり10分程度苔玉の部分まで水につける。葉も洗う。

軽く絞り飾り皿などに飾る。皿に水を溜めない。

苔が早く乾く時は、かるく霧吹きをする。

2ヵ月か3ヵ月に1回程度、ごく薄い液肥をあたえる。

置き場所を考え、苔玉をのせる器を工夫する。